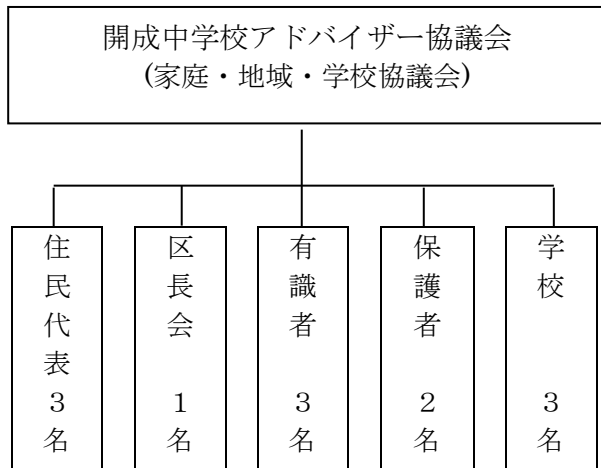


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

大野市開成中学校 校長 山川 龍一

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ①開催回数 3回
- ②開催日程 5月・11月・2月
- ③協議内容
 - ・スクールプランの説明とそれに対する評価と助言。
 - ・家庭・地域・学校の連携と地域行事への参加について。
 - ・授業や行事を参観し、学校の状況や生徒の様子について助言。
 - ・学校評価の分析と改善策について。
- ④上記以外に臨時に集まることもある。

※地域コーディネーター（5名）
 民生児童委員代表1名・PTA委員長1名
 小山公民館長1名・イトヨの里副館長1名
 小山をよくする会会長1名

(2) 協議会における成果と課題

- ①授業や行事などの生徒の活動を直接見ることができるよう、協議会の開催時間帯を工夫したことにより、学校評価の数値と実際の生徒の様子をリンクして協議することができた。
- ②小中合同の協議会は発展的に解消したが、小中連携の観点から、必要性に応じて開催したい。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

生徒が地域の施設や公民館で実施されている行事に主体的に参加し、地域の行事に積極的に関わろうとする態度を育てるとともに活動についての理解を深める。また、学校行事に地域の方に参加してもらい積極的に交流を図る。さらに、地域の行事に参加する中で地域の素晴らしさを感じ、地域に誇りを持ち、地域を愛する心を養う。

(2) 活動の実際について

①「イトヨの里クリーン作戦 ～新堀川イトヨ生息調査・本願清水イトヨ観察池清掃～」

地域の施設「イトヨの里」と共同で「イトヨの里クリーン作戦」と題して、「イトヨ生息調査・本願清水イトヨ観察池清掃」に取り組んだ。副館長を地域コーディネーターとして招いて事前学習会を開催し、イトヨの生態や生息状況等について理解を深めた。8月3日（土）に「新堀川イトヨ生息調査」を8月4日（日）に「本願清水イトヨ観察池清掃」を実施した。開催両日ともに「館長 森 誠一 博士」が参加生徒にイトヨや環境についてレクチャーしてくださり、地域の貴重な生物を大切にしようとする態度を育てることができた。事前にポスターやリーフレットを作成して全校生徒に活動への参加を広く呼びかけた。さらに、当日の様子や当日に至るまでの様子を生徒が i-Pad を用いて画像や映像で記録・編集して、学校祭で報告会を行った。



(様式1)

②「あいさつ大作戦」



開成中のさわやかなあいさつを地域のみなさんにも広げるために、今年度も民生児童委員と連携して「あいさつ大作戦」を行った。市中部民生児童委員協議会より地域コーディネーターを招聘し、生徒代表と一緒に活動を企画した。地域コーディネーターとの事前の意見交換会で、多くの方にあいさつできるように「通勤時間帯と活動時間を合わせる」「人や車通りの多い箇所にあいさつ場所を変更すること」を確認した。また、地区住民に活動を

広めるために、PRポスターやチラシを作成して活動参加への呼びかけを行った。当日は、全校生徒と民生児童委員25名が校区11箇所に分かれてあいさつを実施した。事前交換会での活動の改善策が功を奏し、多くの市民の方々とあいさつを交流できた。生徒会代表が活動の様子をi-Padで記録し、校内掲示用の報告書を作成した。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ①事前学習会や活動の事前準備等、生徒と施設とのスムーズな連携に尽力していただいた。
- ②生徒会と合同で企画をしていただいた。多くの民生児童委員の参加を働きかけていただいた。
- ③参加を募るチラシを作成する段階から事業に携わっていただき、参加生徒に具体的に分かりやすく説明をしていただいた。
- ④小山夏まつりの概要説明や模擬店出店の際のアドバイスをたくさんいただいた。生徒の思いと地域の実情を考慮して、コーディネーターとして調整していただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ①地域コーディネーターと連携を密にし、生徒と一緒に企画を練った。
- ②活動の様子を広く紹介できるように、学校祭の保護者席で活動の様子の動画を発信した。

(5) 成果と課題について

【成果】

- ①生徒が自分たちの活動として主体的に取り組むことができた。
- ②コーディネーターとの事前学習や事前検討会において、自分たちでは気づけない専門的なアドバイスをたくさんいただいたことで、それぞれの活動が本来の目的に近づき質的に大きく向上した。
- ③多くの地域の方々と交流を通して「他人の喜びを自分の喜びとする」態度が育ってきている。本活動が生徒の地域との交流・ボランティア活動への大きな動機づけになっている。

【課題】

- ①今年度は「イトヨの里クリーン作戦」を新規で活動に加えることができたが、それぞれの活動がマンネリ化しないように毎年活動を点検・見直しをして、生徒にとって新鮮な活動にしていく必要がある。
- ②地域コーディネーターとの協議・企画の時間を年度当初の早い段階で事前に周知したことで、活動をスムーズに展開することができたが、連絡・調整を担当する教員には大きな負担をかけることになった。